

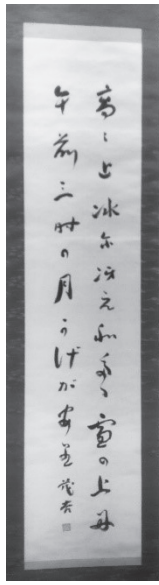
別冊 おおいだものがたり

～資料館資料編～ ■「生誕140年 歌聖 齋藤茂吉と大石田」展より

現在資料館では「生誕140年 歌聖 齋藤茂吉と大石田」展を開催中です。今回は齋藤茂吉の短歌の魅力について解説してみます。

齋藤茂吉は、いわゆるアララギ派の代表格として取り上げられることが多い歌人です。このアララギ系の歌人が重要視してきたのが「万葉集」であり「写生」という理念でした。万葉調の表現とは、素朴、明朗、あるいは直截といった語で説明され、また、写生は美術用語と同じく対象をありのまま描写するという事です。つまり茂吉を含むアララギの歌人が詠む短歌は見たままの風景を率直に表現した、誰にとってもわかりやすい歌ということになります。

ただし実際にその短歌を前にすると、馴染みの薄い文語体や、旧仮名遣いが所々に登場し、難しい、よくわからない、と感じる方もいるのではないかと思います。ですが表面的なとっつきにくさという関門を抜けてみれば、そこに描写されたものはとても身近で、予備知識などがなくとも理解できるということがわかるはずです。特に茂吉が大石田時代に詠んだ歌を収めた『白き山』では、題材は大石田の景物が大半を占めます。最上川をはじめとする自然の風景や季節の移り変わりなどは、この町に住んでいれば必ず思い当たるような光景であり、さらに明快な表現によって一枚のポートレートのようにくっきりと対象が浮かび上がります。例として今回は、展示作品から「高々と氷（ひ）に冴えわたる雪の上に午前三時の月かげがあり」（写真右上）の歌をみてみます。



深更、雪原の上空に月が出ている、という情景です。恐らく曇は無く、あっても山際の方にならずかにその陰が感じられる程度、放射冷却により身を切るような寒さが停滞しています。「氷にさえわたる雪」は日中少し緩んだ雪が、夜になって固く締まり、表面が凍っているのでしょう。高々と上った月は煌々と、しかし冷たい光を放ち、雪原を照らします。月の光が強いせいで星は見えず、空には月だけがぼつんと灯っている様子が思い浮かびます。「午前三時」という限定的な表現によって、何か突き放されたような疎外感や、時が止まってしまったかのような静寂も感じられます。この歌は、生活の中で出会った自然の一場面を切り取っただけとさえ思える単純明快な描写でありながら、内包された世界がどこまでも広がっているのがわかります。また、あくまで客観視に徹しながら、作者＝茂吉自身の孤独感まで表現されているのも見逃せません。

「生誕140年 歌聖 齋藤茂吉と大石田」展は6月19日(日)まで 

大石田町公式アカウント開設

LINEはじめました

防災情報などを
受け取ることができます。

**友だち登録を
お願いします！**

登録方法

右の二次元コードを読み
取って友だちに追加して
ください。



大石田町公式LINE

**防災放送の内容を
電話で確認できます**

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロディ等)放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル：0237-48-8444

■総務課総務グループ Tel.35-2111 (内線218)

町の人口 令和4年5月1日現在		
世帯数	2,266戸	(-3)
総人口	6,454人	(-17)
男	3,204人	(-4)
女	3,250人	(-13)
(4月中の異動)		
出生	5人	転入 17人
死亡	12人	転出 27人

※この人数は外国人も含めたものです。